

ワイ！ワイ！GIKAI（産業生活常任委員会）

(1) 日 時 令和6年11月6日（水）午後6時30分～

(2) 参加者 四日市商工会議所 青年部の皆さん 14名
産業生活常任委員会委員

(3) テーマ ①防災・減災 ②バスタ整備

③ふるさと納税

テーマについて3グループで討議 20分×3回



シティ・ミーティング・(ワイ！ワイ！GIKAI)で出された主な意見

【産業生活常任委員会】

日時:令和6年11月6日(水)

場所:四日市商工会議所

商工会議所 青年部	委員
テーマ:防災・減災	
1 60年以上前の建物を、耐震補強するための補助金や取り組みはあるのか。そういった支援があれば、住宅だけでなく他の古い店舗にも役立つのではないかと。	昭和56年5月以前の一般住宅については、耐震化の補助金対象となる。
2 減災とは何か。津波に対する減災には何があるのか。	本市の霞ヶ浦にあるコンテナヤードでは、空のコンテナが積み置き状態であると、空のコンテナは浮いてしまうことへの対策として、コンテナの上に他のコンテナを積み重ねるなどの工夫をしている。また、津波は川を遡上するため、朝明川では令和3年度に国土強靱化予算で、国道1号より海側に堤防を1メートル嵩増した。北消防署管内に、防災教育センターもオープンしているため、直に地震を体験することが、減災の意識にもつながると考える。
3 耐震補強の補助金の対象について、企業の建物は補助対象ではないのか。	店舗兼住宅の場合、延べ面積の半分以上が住宅用の建物は対象となる。
4 土砂崩れで通行止めになったことがあったが、山間地域での防災対策はあるのか。	切土して埋め立てた場所や山崩れの危険がある地域はすでにマップ化されている。昨年も市内で大雨による崩れがあり、盛り土は弱いことが確認されている。宅地造成後に、災害危険区域として指定する場合には、資産価値の低下の問題もあることから、指定に対する慎重な対応が求められている。
5 現在の企業は基本的にデータを基に業務を行っているため、例えば、津波が来た際の対策や、被害を受けて壊滅状態になったときの復旧については、データがなければ事業を続けることが難しく、経済的に破綻する可能性がある。また、クラウド導入には高額な費用がかかるため、そのための補助がないと中小企業には導入が難しいのが現状である。BCP対策の一環として、クラウドサーバーを利用してデータ管理をしている企業がどの程度あるのか知りたい。	ご意見として承る。本市では、クラウドサーバーを利用してデータ管理している企業の統計を取っておらず、今後も予定はない。
7 津波だけでなく地震による倒壊や火災への対策が重要である。地震の際、避難だけでなく火災を防ぐ行動も必要であり、減災のための指導やレクチャーが必要であると考え。また、市街地で火災が発生すると被害が拡大する可能性が高いため、その対策に力を入れるべきと考える。	ご意見として承る。
8 大規模震災の支援に行き届かなくて感じたことだが、四日市への支援物資の供給が確保できるのか、不安を感じる。この地域で災害が発生した場合、名古屋市などの大都市が優先されるのではないかと。そうなった場合に、行政のやるべきこと、民間のやるべきことを明確にして、支援につなげるようにしてもらいたい。	ご意見として承る。
9 普段から、交通渋滞が発生しているため、災害時に、物資が供給できるのか不安に思う。特に、中心市街地まで物資が供給できるのか心配である。	ご意見として承る。
10 震災支援について、行政同士のやり取りでは供給などが遅くなる可能性があるため、現場での迅速な対応が求められる。市が主体となって、民間同士の連携を推進できる仕組みが必要だと考える。	ご意見として承る。
11 災害は避けられないため、減災や防災、そして災害後の対応が重要である。地震で倒壊した建物の保証業務が遅れると試算ができず、罹災証明書発行の遅延の原因になるため、その準備をすることが重要だと思う。	ご意見として承る。
12 大雨があるたびに、朝明川が決壊しないか不安になる。	令和4年度に、朝明川の広永橋から北勢パイパスまでの間の400メートルで浸漑(しゅんせつ)し、洪水対策を実施したところである。
13 民間企業でも災害対策への意識がまだ低いのではないかと、防災リテラシーを向上させるため、定期的に防災意識や知識を向上させる仕組みが必要である。人間は時間が経つと、忘れやすいため、継続的な防災教育が必要であるため、学校や企業を通じた飽きない防災教育を取り入れるべきであると考え。	ご意見として承る。
14 官民協定以外に、民間同士で災害時に協力できるような協定が必要である。民間同士が連携して助け合う仕組みを作り、自治体がそれを先導することが重要である。また、四日市でも、民間テックフォースがあったほうが良いと考える。	ご意見として承る。
15 地震や津波だけでなく、大雨などの災害が増えている中、四日市の避難場所は小学校や中学校が中心で企業を避難所として指定することが不足している。住民の避難場所が限られ、満員になる可能性が高いため、企業の屋上などを避難場所として活用することも検討してほしい。	ご意見として承る。
16 会社を避難所として、受け入れようと試みたが、外階段がないという理由で話が進まなかった。防災については、想定外のこともあるので、もっと柔軟に対応する必要があるのではないかと。	ご意見として承る。
17 策定したBCPに基づき、南海トラフを想定した防災訓練を実施予定であるが、実際に被災した方の話を聞くと、想定外の事態が多くあり、BCPが役立たないことが多いと感じている。四日市は長期間、大きな災害がないため、危機感が薄れている人もいるのではないかと。本当に被災したときに冷静に行動できるか心配である。	ご意見として承る。
18 従来からの地域の運動会の代替案として、自衛隊の地域事務所と連携し、自衛隊が民間企業に求めることを運動会形式で学ぶパッケージを作成しているところである。先進事例があれば、視察先として考えてはどうか。	ご意見として承る。
テーマ:バスタ整備	
1 バスタ整備の意図が何なのか疑問に思っている人が多いのではないかと。よく「にぎわい」という言葉が出ているが、それが具体的に何を指すのか明確ではない。若い世代、特に高校生や大学生が楽しむ場所を作る観点から、若者の意見が反映されているのか疑問である。若者が実行委員会に参加して、町の未来について意見を出しているのか。大人が決めたことでは、若者は活用しない可能性が高いため、これからの主役となる若者の意見が重要だと思う。	ご意見として承る。

	商工会議所 青年部	委員
2	今回の社会実験に関わっているのはごく限られた人たちであり、多くの人が知らないところでハード整備が進んでいることが問題である。これから「ニワミチ」をどのように活用し、四日市をどう変えていくのかについて、もっと多くの人の意見を聞き、認識する機会を増やす必要があると考える。もっと情報を発信し、多様な声を取り入れることで、中身を作り上げることが重要だと考える。	ご意見として承る。
3	若者に四日市について尋ねると、遊びに行く場所として四日市を選ぶ人はほとんどおらず、多くが名古屋へ行く。四日市には魅力や楽しめるイベントが少ないのではないかと感じているため、もっと若者に焦点を当てた取り組みを行ってほしい。	三重大学の学生たちは、四日市で懇親会を開催することが多く、これは四日市が位置的に便利だからである。若者は地元外で遊ぶ傾向があり、四日市が考えるべきなのは、いかに他地域の若者を呼び込むかだと考える。大学誘致や駅前再開発により、四日市の駅前が「にぎわい」のある場所にすることが期待されている。
4	中心市街地の商店街には飲食店が多く、物販店は採算が取れず、数が少ない状況であり、昼間の商店街は寂しいと感じる。多くの飲食店が頻繁に入れ替わり、物販店が少ないため商店街の本来の機能が果たせていない。若者が起業しにくい理由として家賃の高さや固定費が挙げられ、これを解消するための制度や仕組みが必要だと考える。	ご意見として承る。
5	バスと商店街の運動について、具体的な取り組みはあるのか。	大学ができて、昼間に若者が増えれば、それに合わせて商売を考える人も出てくると期待している。民間の活力を活かし、起業できる環境を整えるために、市が最初の3年間ほど支援する仕組みなどもあってもいいのではないかと考える。
6	近鉄四日市駅周辺のバス利用状況について、高校への通学で利用する人もいれば、全く使わない人もいる。バスターミナル設置による経済効果や人の賑わいについて、ハード面ではなくソフト面での経済的効果についてどのように考えているのか。	具体的な経済効果の数字は出ていないが、バスターミナルの設置に関連して、図書館やニワミチ、大学などが出来ることによって、これまで中心市街地に出てこなかった人々に対するアクションが期待されている。
7	バスの本数が減少している中で、バスターミナルの設置によって、バスの増便や新たな路線の導入につながるのか。	バスターミナルを拠点として、さらにバスで行ける場所との繋がりが向上すると考えている。増便に関しては、採算を取るのが難しいため、補助金によって増便できるかどうかが課題である。
8	四日市と桑名を比べると、桑名にはしっかりしたバスターミナルがあり、バスが生活の移動手段として使われている。一方、四日市は車での移動という印象が強く、学生はバスを使うが、一般の人がレジャーなどでバスを利用する認識は少ない。そのため、バスターミナルを設置する意図がわからない。観光資源としては、港をもっと活用する方が良いのではないかと思う。	バスターミナルを設置することは、中心市街地のにぎわいを創出するためのきっかけであり、本市の玄関口の整備につながるものである。これをきっかけに、大学や図書館、ニワミチの整備につながっていくものとする。
9	J R四日市駅を利用して、本市に来た人から、「四日市はこんな駅なのか」という印象を持たれることがあるため、J R四日市駅も含めた再開発をしてほしい。	大学を設置することで、約1000人の学生が通学することになるため、J R四日市駅の利用者が増加することが期待される。また、学生が周辺で労働することによる活性化も見込まれる。
10	ニワミチを整備しても、公園でリラックスするイメージは湧かない。食べ物屋ができて、公園で座ってコーヒーを飲む人がどれだけのいるのか疑問である。	近鉄四日市駅とJ R四日市駅の間に「ニワミチ」を設置することで、J R四日市駅周辺にも効果をもたらし、街全体に賑わいを誘導する狙いがあると考える。「にぎわい」を増やすのではなく、市民公園周辺の「にぎわい」をニワミチに誘導してくるイメージである。
11	バスと言えば、新宿のバスの印象が強かったため、四日市にバスができることに期待を持ったが、四日市の「にぎわい」創出にどれほど寄与するのか、個人的には半信半疑である。	ご意見として承る。
12	バスができることで、本当に「にぎわい」を創出できるか疑問である。バス停を統合しただけでは十分な効果があるのか不明であるし、現状では駐車場が不足していることが問題だと感じている。バスターミナルだけでなく、周辺の整備や相乗効果を考慮しなければ、集客力は高まらないと思う。	バスターミナルの役割は再開発のきっかけ作りには過ぎないと考える。バスだけで人が集まるとは考えにくいので、他の要素も含めた総合的な開発が必要である。重要なのはバス以外の部分、例えば、ニワミチ、図書館、大学などの周辺の開発である。
13	バスができて、その周りをどう魅力的にするかが重要だと思う。そうでなければ、結局そのエリアが利用されないではないか。また、そこに住む人々にとっての交通の便や治安なども気になる点である。	ご意見として承る。
14	J R四日市駅から延伸して、旧四日市港の千歳地区まで開発を伸ばし、観光船を運行させるなどでできれば面白いのではないかと。これにより四日市港自体が新たな活路を見いだされ、地域の魅力を高められるのではないかと。	ご意見として承る。
15	「にぎわい」の先にある目標が何であるかを明確にし、それに向けた具体的な計画を立てることが大切だと思う。若い人たちが集まるのが「にぎわい」なのか、おじいちゃんおばあちゃんがニコニコと歩く姿が「にぎわい」なのか、そのイメージは人それぞれである。そのため、一つの明確な目標を設定し、それに向かって皆が協力して取り組む必要があると思う。	・地域にはそれぞれ得手不得手があり、四日市が観光地としてお客さんを呼び込むのは難しいと思う。四日市は主に働く場所として認識されている。地域の役割分担を考え、四日市が得意とする分野に注力することが効果的だと感じる。 ・全国各地で中心市街地を活性化するため、図書館を「にぎわい」の核として活用している。周南市では図書館が学生の集まる場となり賑わいを生み出し、都市圏では旧百貨店を図書館に改装し、週末に3000人が集まるマルシェを開催している。一方、四日市では具体的な「にぎわい」の定義が曖昧で、大学の誘致による若者の流入によって変わってくる部分があると思っている。
16	新図書館建設の進捗状況はどのような状況か。	報道のとおり、市役所北側にある企業が所有している駐車場を中心に、その周りを購入できるのであれば、購入する予定である。そこに建てるための調査費用の予算が可決されており、現在、調査を実施している状況である。
17	新図書館の土地の取得について、行政は用地交渉が得意ではないため、取得できないのではないかと。	行政の立場では、民間企業同士のように柔軟な価格交渉が難しい部分がある。例えば、民間では決まった予算があっても減額交渉を開始することが可能であるが、行政は予算が決まってしまうと相手側にその額が知られてしまい、交渉が難しくなる。また、調査には失敗がつきものであるため、失敗を恐れて調査を一切行わないわけにもいかないという実情もあることをご理解いただきたい。
テーマ：ふるさと納税		
1	プロデューサーを雇ってプラットフォームを増やしたところであるが、四日市には、有力な名産品がないため、新たにブランドを作るのは難しいと思う。今後、プロデューサーに何を期待するのか。	ふるさと納税制度は、もともとは生まれ育った故郷に寄付するだけを目的とした制度であったが、インセンティブが付与されてショッピング感覚になり、損得や魅力が重視されるようになった。寄付する市町村を選ぶ楽しみが増え、税金を取られるよりも選択肢がある方がよいというイメージがついてしまった。日本全体で見ると、経済を回す仕組みになっているが、市町村単位で見ると、瞬間的な利益に注目するだけで、中長期的な視点が欠けていると感じている。

	商工会議所 青年部	委員
2	体験型の返礼品を導入することが最も効果的だと思う。普段入れない場所を訪れることができる体験として、例えばコンビニート内部の見学などを提供すれば、四日市に来る価値が高まるのではないかと。体験型の観光は、商品をただネットで購入して届くのと異なり、実際に訪れてもらうことで他の場所でもお金を使ってもらえる。また、ニッチな趣味を持つ人をターゲットにすることが効果的だと考える。	ご意見として承る。
3	プロデューサーを雇って、赤字解消に向けた動きを見せているが、いつになったら、黒字になるのか。	ふるさと納税について、返礼品の種類を増やし、ポータルサイトの委託料を費やした結果、入ってきた金額が多いため赤字ではないが、市民が他の自治体に納税している部分の影響を考慮すると、必ずしも黒字ではない状況である。
4	ふるさと納税は当初の目的から変わり、PR活動の影響で返礼品ありきになっている。PRの効果で品が注目されるような現状において、四日市はPRできる商品が乏しいと考えられるため、いかに商品を充実させるかが課題であると思う。	ご意見として承る。
5	ふるさと納税という名称だから、例えば、自分の両親の老人ホームの入会金など、他の地域がやっていない独自の取り組みを四日市で行ってはどうか。	ご意見として承る。
6	新たな取り組みとして、飲食店で食事の体験ができるチケットを発行してはどうか。	ご意見として承る。
7	ふるさと納税の制度の趣旨には、他の地域に住む人同士で税金を取り合うという根本的な問題があるため、反対である。	個人的には商工会議所青年部でも反対の声を上げることも選択肢の一つであると思う。議員の中でも、ふるさと納税に賛成する人も反対する人もいる。どの方向に進むべきかは、今後も議論が必要となってくる。
8	税金の取り合いをして、本来四日市に入るべきお金が流出することを良しとするのは問題だと感じている。自分の住む地域にお金を落とすことが税金の根本的な仕組みであり、そのお金で四日市全体が良くなり、その恩恵を企業も受けるという循環が重要だと考える。	ふるさと納税のスキームには問題があると感じるが、寄付文化の部分と税金のスキームを分けて考えたときに、寄付文化を醸成するという意味もあるのではと感じる部分もある。
9	「ふるさと納税」の名前を変えた方が良いのではないかと。名前を変えるだけで売り上げが大きく変わることがあり、「ふるさと」という名前が適切でない気がする。また、一定規模の都市の人は対象外とするような制限を設けてはどうか。	ご意見として承る。